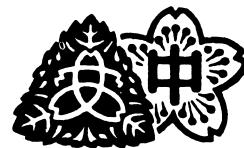


東京桑野会会報

●2008年4月1日発行●発行・編集人 古川清●発行所 東京桑野会事務局 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-3-8 YKB新宿御苑804



No.30

画：岩谷 徹 (67期)



ご挨拶

東京桑野会会長
古川 清

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

123年の歴史を持つ安中・安高は多くの偉大なる人材を世に送り出してきたが、国際的活躍という点では朝河貫一（第4期）の右に出る者はない。

米国での排日移民法が可決され（1924年）、日本人への差別が渦巻く中で彼はイエール大学の教授に上りつめている。第二次世界大戦中も収容所とは無縁で大学で通常の学究生活を続けることが出来た。それ程、朝河博士への尊敬の念は高かった。

昨年10月12日、イエール大学構内に造られた彼の功績を讃える朝河ガーデンのオープニング式典があり、加藤

良三駐米大使の出席も得て盛況であった。式典後の昼食会で大学の男性合唱団ベーカーズ・ダズンが学生歌数曲を唱って吾々を歓迎してくれたが、この合唱団は冬休みを利用して来日、本年1月8日に福島市、9日に郡山市でコンサートを開催、成功であった。一人の先輩の偉業が、没後60年という時間を乗り越えてこのような国際交流をもたらしていることを考えると感慨深いものがある。桑野会から第二、第三の朝河貫一的な国際的人材が出て欲しいものである。

東京桑野会定期総会開催のお知らせ

東京桑野会のメインイベントである、定期総会と懇親会を次の通り開催いたします。多数の同窓会員の皆様に参加されますようにご案内申し上げます。

- 期 日 2008年(平成20年)6月3日(火)
- 時 間 午後5時——受付開始
午後6時——総会
午後6時30分——懇親会
- 議 題 1. 会務報告の件
2. 予算決算の件
3. その他
- 場 所 目白 椿山荘
東京都文京区関口2-10-8
(TEL 03-3943-1111)
JR目白駅、地下鉄有楽町線江戸川橋駅下車
- 会 費 懇親会費 8,000円
(学生は年度会費込み 3,000円)
2008年度東京桑野会会費 2,000円

東京桑野会は会員皆様の年度会費によって運営されています。

総会当日にご出席出来ない会員の皆様には、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みのご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もございますので、出欠の返事は同封の葉書で5月23日(金)迄にご返送下さいますようお願い申し上げます。

事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入して下さい。

◇また、連絡もれもあるかと思われますので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、2007年5月29日に開催され、154名の参加があり盛況でした。

母校便り

☆安積初の海外修学旅行が実現した。シンガポールがその地である。海外の文化を体験・視野拡大する、複雑な歴史を持ち日本とも関わりの深い彼の地を訪れたことは、この目的に合致する。そして日本人であることが、国際人であることに必須であることを感じてくれたことであろう。

☆昨年9月に行われた紫旗祭(学校祭)の前夜祭で、箭内道彦氏(96期)の講演会が行われた。箭内氏は、多くのCMを手がけるクリエイティブディレクターで、「プレジデント社」が特集した「有名人の出身高校」で安積OBとしては唯一登場した人物である。主な作品は フジテレビジョン「きっかけはフジテレビ」、資生堂「uno」、森永製菓「ハイチュウ」などなど。生徒さんには大変に刺激になりました。※東京桑野会HPの安積OB・OGクイズにも登場しています。ごらん下さい。☆生徒さん達の活躍の様子もお伝えしましょう。放送委員会は、第11会東北高等学校放送コンテストに出場し、最優秀賞に輝きました。放送室には「団結・体力・礼儀・趣向・自発」との掲示。モットーは「楽しく、かつ、やる時はやる」。いいぞ、安高生!

☆ラグビー部は、新人戦県大会において、優勝を飾りました。今後の抱負を部長の名倉駿君は、「今大会の結果に一喜一憂せず、春の県総体で優勝し、東北大会を勝ち進み、秋の大会へ流れをつくりたい」。その強き流れで、おじさん達を西に連れてってくれ!(敢えて場所名は言わない)。

☆安積は、部活動が活発です。勉強と

人が、季節が、集います。

味

お食事

伝統の味に季節の彩りそえて

- 料亭・錦水内・れすとらん花車
- 石焼会席処・木春堂
- そば処・無茶庵

宴

ご宴会

華やかな集いに17の大小宴会場

- 2,000名様までのパーティー、国際会議、ファッションショーなどのお集りに。
- 最新機能の音響装置。

寿

ご婚礼

佳き日に永遠の幸せを誓う

- 800名様までの日本料理、フランス料理、着席ご披露宴。
- 庭園での記念撮影も随時お撮りいただけます。
- チャペルでのご挙式も承ります。



CHINZAN-SO
椿山荘
03-3943-1111

部活が、頭と、身体と、心を鍛えるんだよ、磨くんだよ。そう、箭内道彦先輩も、「紫旗祭」のポスターを描いたんだよ。

☆母校の先生方の活躍も！。母校非常勤講師の小磯匡大氏が昨年11月、司馬遼太郎フェローシップ（司馬遼太郎記念財団主催）を受賞された。同賞は司馬氏の作品にインスピレーションを得た調査、研究等を支援するものであり、小磯先生の受賞研究タイトルは「ユーラシア東北部の狩猟民の神話的思考－クマ送りを例に－」である。

☆母校は共学化に伴い、制服が廃止された。「学びの場にふさわしい服装を自己決定しよう」と生徒生活規定に定められているが、現状はどうか？ 生徒さんの分析によると、「男子生徒は学生服、女子生徒はブレザーやブリーツスカート」という、学生服・制服のような服装が8割とのことである。あんまり服装に時間をかけられないし、無難に・・・ていうところでしょうか。

☆服装に関して話題をもう一つ。新グッズ・安高エンブレムが試作され169名が購入した。企画した星栄一先生（91期）は、「安高では制服を定めていないため、既製のブレザーを着ている生徒が多いが、メーカーのエンブレムのままなのは頂けない。安高らしさを表すエンブレムが必要だと思っ

た」とのこと。今後は、新入生向けに自由販売を行う予定で、評判によっては定番化が検討されるとのこと。

会員動向

☆当会会員 田母神俊雄氏（80期）が、平成19年3月28日付けで、航空幕僚長に就任されました。航空自衛隊の軍政部門である航空幕僚監部の長で、防衛大臣を補佐する職です。要職での益々のご活躍を祈念申し上げます。

☆当会会長 古川清氏は、平成20年1月に、郡山市フロンティア大使に就任されました。【郡山市HPから：郡山市では、各界で活躍されている郡山ゆかりの方々を「フロンティア大使」として委嘱し、まちづくりに対する助言をいただくとともに、郡山市のイメージづくりやPR活動を外部から積極的に支援していただいている。】

☆東京桑野会でもいろいろとお世話になった、母校の佐久間公民先生（79期）が、平成19年度末をもって定年退職されました。本会会員の中にも薫陶を受けた方も多いことでしょう。先生の退職にあたっての心境を－「正直に言うなら、もう少し安高で授業をしたい。今までに退職の実感はなかったが、同窓会などの席に呼ばれて退職の話をし

る度に、段々と実感が湧いてきた。講座を終えて、もう安高生相手に授業をすることは無い、と改めて思うと寂しい。しかし同時に、母校で退職できることを嬉しく思っている。」先生は、教師人生36年間のうち22年が安高勤務であったとのこと。高校時代の3年間を含めると四半世紀を安高で過ごしたことになります。そのヒゲの風貌から、テレビゲームのスーパーマリオブラザーズのキャラクターに似ており、愛称は「マリオ」でした。これからも生徒を外から見守って下さい。自由になられましたから、東京桑野会にも遊びに来てください。



画：村田 旭（86期）



ご挨拶

安積桑野会会長

大高善兵衛（67期）

平成20年度、新しい年度にあたり会員の皆様には、穏やかな春の日を迎えておられることと拝察いたします。

振り返ってみると、昨年度は佐久間崇之・前会長よりバトンを受け取り新体制での船出をいたしました。会長大高善兵衛67期、副会長山口勇69期・丹治徹72期・須佐喜夫75期・山口孝夫76

期・石田宏寿77期、幹事長高橋金一89期、副幹事長渡辺隆弘70期・神山英司86期・佐久間公民79期、監査佐々木寛侑75期・今泉守顕84期とし、会の充実を図ってまいりました。在校生の為またOB・OGの方々との交流を深めてゆくため努力を重ねてまいりたいと考えています。

昨年の文藝春秋一月号に加藤良三駐米国大使が、朝河貫一博士の人と足跡について書いておられました（朝河賞、樗牛賞、新城賞は卒業式の中で、その年の首席や準ずる者に手渡される由緒ある賞であり、現在も継続されています）。

これをきっかけに博士のゆかりの地二本松市や九州入来院町などを訪問し研究を重ねてきたメンバーが、博士の

在籍した米国のダートマス大学、イエール大学を訪問し記念のレリーフを飾り、また学内に日本庭園を創設する計画を実行に移しました。

その計画に先立って夏の郡山で博士にちなんで、古川清、矢吹晋、阿川尚之、宮崎緑、各氏によるパネルディスカッションがありました。分刻みのスケジュールの中に加藤駐米大使がオーストラリアのAPEC（アジア太平洋経済協力）会議の後、直行便で成田に9月9日の朝到着し、すぐに新幹線に乗車し（奥様と一緒に）駆けつけて下さいました。到着した後休む間もなく安積歴史博物館内の講堂で講演をして頂きました。熱気にあふれる時間は蒸し風呂状態でしたがOB・OGと現役はじっと話しに聴き入っていました。

夜の懇親会は郡山ビューホテルで全員が参加して、博士を通じて大いに盛り上がりました。

秋になり10月9日から7日間の米国の旅。古川清元東宮大夫をリーダーとして矢吹横浜立大名誉教授、糠沢福島テレビ社長、梅田元安積高校長、入来院重朝・貞子夫妻、武田先生、安積桑野会関係者、平成18年に九州入来院を訪問した方々等、計30人にのぼるメンバーの訪問は、歴史に残るものでした。

ダートマス大学には、立派なレリーフが贈られました。全員が昼食をごちそうになり、午後には図書館で博士の学生の頃の成績表や若い学生時代の写

真を見たり、ポーツマス条約の締結交渉時に使われたテーブルは学長室で使用していることを聞いたり、学生朝河と悠久の時代を充分に偲んでまいりました。

一泊の後、ボストンを経てイエール大学に向かいました。雨の中、墓参りを済ませイエール大学の朝河記念日本庭園を訪問。そこには加藤大使夫妻がわざわざボストンから来て歓迎セレモニーに参加。古川清 朝河貫一顕彰会会長、矢吹晋先生、二本松副市長水田莞爾氏等がイエール大学の学部長等と共にいったスピーチは素晴らしく感動しました。

この旅が縁となり、イエール大学の

合唱団ベーカーズ・ダズンが1月7日に来日。福島と郡山で1,600人の日本人との交流は楽しいものでした。一行19名は日光東照宮を訪問し（勿論、前日には安高と二本松市を訪問）、東京から米国へと帰国の途につきました。

結びに、来年のNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」（事務局注：司馬遼太郎氏の代表的長編小説「坂の上の雲」を原作として、平成21年（2009年）から3年にわたって放送する予定とのこと）の撮影に安積歴史博物館が使われたことを報告致します。主役が海軍の官舎で食事をするシーンですが、懐かしい変わらない学び舎をご覧ください。



活気溢れる

安積高等学校長
関 博之

2月9日土曜日、11時30分。ちょうど今、旧本館2階の講堂で東京桑野会の野村貴美先生（83期、現在東京大学准教授）にご講話を頂いている。「紫の旗会」のスタートに当たってお越しいただいた。「紫の旗会」は、1学年が東大、京大、一橋大、東工大の4大学を志望する生徒たちの進路意識の高揚や仲間作りをねらいに、特に企画しているもの。2年生の半ばまでに4回の開催を計画しており、2回目以降も上記4大学の在生学生をはじめ様々な形でご協力をいただく機会があると思う。第1回で何より心強かったのは、参加生徒が100名を超えていること。全国区の難関大学に挑戦しようとする者が100名を越す安高生の志の高さに期待し、大切にしていきたいと思っている。

野村先生には、本校で毎年開催している東京大学見学会の折のとりまとめをして頂いている。今年も一年生を中心に100名以上が7月後半にお世話いただく予定である。

本校は平成20年4月の入学生124期

から1学級減になる。入学定員が9学級360名から8学級320名になり、40名の減。本校と安積黎明高校が共に1学級減になり、これで県内公立高校はすべて8学級以下になる。すでに先日実施したI期選抜では5.47倍と県内一の高倍率であった。定員減に伴い益々狭き門になるが、難関を乗り越えて入学した生徒を逞しく育てていきたい。

また、普通科の学区について、県教育委員会は1月の定例会で隣接学区からの入学制限枠を平成21年から全県一律20%に拡大することを決めた。本校の場合、現行入学制限枠3%から20%に拡大し、64名まで隣接学区からの入学が可能になる。全県一学区制の導入については時期尚早との判断で見送られたが、定員の5分の1が隣接学区から入学できることは、全県一学区の実質的導入と大差ない。新幹線で共に15分の福島市や白河市との出入りをはじめ、会津、いわきとの動きも大きくなりかねない。拡大された学区制の下で、安積の存在をより確固たるものにすべく地域、学校あげて取り組む所存である。

新年に入り安高は一段と活気づいている。1月17日には現職大臣の渡海紀三朗文部科学大臣のご訪問をいただいた。SSH事業実施校の生徒の授業を直に体験したいと通常国会開催の前日に急遽お出でいただき、1年5組の「生物I」の授業にご参加いただいた。生徒と共にいる時間を何より大切

にされ、生徒の質問に気さくに、丁寧に、真っ直ぐにお応えになられる大臣に、生徒の眼差しは強く、輝きに満ちていた。生徒にとっては心を揺さぶられる天与の好機、大臣に心から感謝したい。

大学入試センターテストで3年生（121期）が健闘した。約350名が受験し、平均点では県内の最上位になり、東北各県のトップ校にも肉薄している。好成绩を残した前年度を凌ぐ成果をと懸命の努力が連日続く。志の高い目標の実現と一人でも多い志望達成を期待している。

部活動では早々に朗報が届いた。放送部が東北高校放送コンテストテレビキャンペーン部門で最高賞の最優秀賞に輝いた。最優秀「DRAWING」は部員みんなで手間をかけた作品。努力が認められたと部員の弁。ここ数年連続で全国大会に出場している放送部の今夏の活躍が待ち遠しい。

青空のいわきGF。ラグビー部が新人戦で3年ぶりの福島県大会優勝を飾った。準決勝で平工業に21-19と殊勲の金星。このところ県内常勝の平工に一矢報い、選手の大きな自信になった。決勝の磐城戦は48-24と圧勝。特に後半は持ち前のスピードを生かし面白いようにトライを重ねた。この秋、3度目の花園に向けて夢が膨らむ。

今年も東京桑野会の皆様のお力添えをたまわりたい。

安積の応援を思う

大矢真弘 (88期)

昨年の11月18日(日)、安高野球部が私の勤務先である早稲田実業学校の野球部との練習試合のため上京、久々に懐かしい安高生の姿を見ることができました。生徒たちは皆、礼儀正しく、スポーツマンらしい、きびきびとした挨拶、立ち居振舞い、試合前の準備体操等も立派で、とても嬉しく誇らしく思いました。勝負の方は2試合行い、2連敗でしたが、惜しい戦いでサウスポーの投手を中心とした良いチームでした。今年の活躍を期待させるものがあり、21世紀枠で出場した春の選抜大会の感激を、また夏の選手権大会で味わいたいものです。

昨年の東京桑野会総会の時には、初の女性応援団長だった卒業生とも話ができて、楽しいひと時ではありましたが、応援団の状況は、かつてのような賑わいはなく、団員の募集にも苦勞をしているとのことでした。もっとも東京六大学の応援団も早実の応援部も、チアとプラスバンドは人気があるのですが、いわゆる応援団員の方は各校とも厳しい状況ではあります。

安高の応援を思い出すと、当時の安高生は授業や夏の補習等があっても、野球の応援に駆けつける生徒がたくさんおりました(もちろん授業に出ている生徒の方が多いたのが当然ですが)。開成山球場は当然として、熱海や白河まで自転車にまたがり応援に来てくれた先輩を見たとき、ああ安高に入って良かったと感極まったことを思い出します。私の甥が昨年安高を卒業したのですが、野球の試合の前に携帯メールで、応援に参加するよう依頼がくるとの話を聞き、「それは違うんじゃないか! 安高らしくないんじゃないか!」と思ったものです。応援には来るもよし、来なくてもよし。応援団は次も応援に参加したくなるような応援をし、運動部員や応援団員は、同級生等が、「よーし応援に行こう」と思うような仲間を作らなければ

いけないのではないのでしょうか。

授業を休むことを勧めることはできませんが、受験勉強は自己責任、人生は自己責任ですから、仲間の応援と学校の授業を天秤に掛けて悩んだ後、2割ぐらいの生徒は仲間と母校の応援に行くような安高生であってほしいと、応援団のOBとしては思っております。

88期の私が安高生だったのは30年以上も昔ですが、先輩と後輩の関係は、上下はありながらもユーモアと温かさがあり、大学の応援部や就職してからの先輩後輩の関係とは違ったものでした。当時、先輩たちに買ってもらう一緒に食べたパンの耳やコロッケ、コーラ等の味は叙々苑の焼き肉や今半のすき焼きに勝るとも劣らない美味な青春の味で、また、「破戒」や「夜明け前」等を読んだのも先輩の薦めでした。春と夏の合宿には帰省した先輩たちが訪れ、安高七不思議や春歌等を教わったり、東京の学生生活を面白おかしく話してくれたりしました。インターハイ予選の応援で泊まった会津若松、相馬、福島でも、詳細は明らかにできませんが、安高応援団ならではの楽しみがありました。

これから安高に入学する中学生諸君、ぜひ日本一の安高応援団の門を叩くべし。(早稲田実業学校初等部)

生きる力

熊田宏毅 (117期)

(第56代副団長)

現行高等学校学習指導要領の総則には、「学校の教育活動を進めるに当たっては、生徒に生きる力を目指し～」とあります。現在の教育のキーワードの一つとも言える「生きる力」。私はこの力を、困難なことに対して粘り強さと勇気を持ち、真正面から立ち向かう力のことでありと捉えています。そう考えると、安積高等学校応援団で得たものはまさに生きる力であったのだらうと思います。

今も公言していることなのですが、

私の原点は応援団にあります。高校生という多感な時期に、一所懸命に応援団に打ち込めることができたからこそ今生きている自分があるのだと考えています。だからと言って決して楽しい思い出ばかりがあったわけではありません。現役で活動していたときは、地味ではありますが、精神的にも肉体的にも厳しい練習を毎日のように耐えていました。そのため、途中で逃げ出したくなったときもあれば、疲れきって自宅に戻った後一人泣いたときもありました。しかし、私には、本気で指導してくださる先輩、一緒に頑張ろうじゃないかと励まし合うことができる友、頼りなくとも歯を食いしばって付いてきてくれる後輩がいてくれたため、その仲間たちのためにも、そして何より自分のために諦めずに頑張ることができました。「これを乗り越えることができたならきっと違う自分に会える。」そう信じて過ごす毎日が自分自身との戦いでした。

このように自分自身と徹底的に向き合った結果、少しのことでは動じない自分に会うことができました。また、応援団の活動全体を通して、困難なことでも、覚悟してぶつかっていけば成し遂げられることを身をもって実感しました。応援団を三年間やり遂げたことで自信も付きました。応援団以上に自分の力を最大限に注ぎ込んだものはありません。あのつらさを経験していたため、大学受験も教員採用試験も迷うことなく思い切った気持ちで臨めました。本当に自分は多くのものを吸収できたのだと思います。

また、本気でぶつかることができた応援団の仲間たちがいてくれて本当に自分は幸せ者でした。現役を含め、彼らは私の宝です。共に青春時代を謳歌できたことは私の大切な思い出です。両親、安積高等学校の先生方、紫魂会の方々にも大変お世話になりました。いつも見えないところで私たちのために尽力してくださり、暖かく見守ってくださったことには感謝の気持ちでいっぱいです。この場を借りまして、心から御礼申し上げます。

さて、大学生活にも終止符を打ち、

もう少しで私は一人の社会人として旅立ちます。来年度からは福島県立高等学校物理の教員として働く予定です。応援団で学んだことを生かし、生徒たちに、つらくとも本気でぶつかることの大切さを体験を通じて伝えていきたいです。また、生徒たちが社会の荒波に放り込まれてもしっかり自分を確立できるように、人間作りに貢献していこうと決心しています。「この高校でよかった。」と胸を張って母校の校歌を歌うことができる生徒を育てるのが私の夢です。教師になるという自分の夢がなくなったとはいえ、また新たなスタートです。課題が多く、まだまだ至らない私ではありますが、これからも紫魂を忘れず、人生の大進撃を起こせるように頑張っていけます。(山形大学 学生)

私と応援団

小橋亮一郎 (118期)
(第57代団長)

応援団とは、所詮、自己満足の部活である。運動部における勝ち負けや文化部における賞などは存在しない。応援団の活動に対して見返りを求めることなどは許されるものではなく、そもそもそんなものを求めていたら、気が滅入ってしまうだろう。そのような応援団が持つ意識を時代錯誤であると批判する者や滑稽だと言って失笑を浴びせる者もいる。それでも応援団が持つ意識の下、自分としての快感を求めて活動し続けねばならない。私は、先輩方と酒を酌み交わす度に応援団に入団した理由、応援団を続けた理由を彼らに尋ねる。ある先輩は「大進撃に憧れたから」、またある先輩は「リーダー台に立つまで諦められなかったから」と話すが、私は少々異例のようである。「もしここで退団してしまったら、数々のお世話になった先輩や先生方に二度と顔向けできない」、「私を知っている誰もが応援団を辞めたと噂するであろう」と考え、それが怖くて辞めることを言い出せ

なかったのだ。応援団における憧れや目標を考える余裕などなく、そこに楽しさを見つけることなど出来なかったのだ。しかしながら、私は高校3年間を応援団と共に過ごした。

私が最初に安積高校応援団を見たのは、112期の先輩方が夏の開成山球場で光南高校に逆転勝利を取めた試合であった。子供心ながらに記憶していたあの関の声こそ自分が望んでいたものであったのだ。そのような私は安積高校の共学化に反対していた。なぜなら、私が118期でただ一人の団員であったこと、そして、壮行会において情けない校歌で選手たちを送り出してしまったことも男女共学が原因だと考えていたからである。そもそも男とは、女性の前では格好をつけようとする。今の若者にとって、大声で校歌を歌うということは恥ずかしいことなのかもしれない。共学化に伴い応援団がなくなっていく他校のような道を安積も辿るのかと私は心配していた。

2004年の夏は実に暑かった。優勝候補と言われていた5校の全てに当たってしまうというトーナメント表を見て落ち込む私に、「見せ場が多いじゃないか」と顧問の先生が励ましてくれた。私は飯島悠希に心の底から感謝をしている。彼は安積を背負い最後まで戦った。その姿が安高生をまとめたといいても過言ではない。何百人の生徒が、電車とバスを乗り継ぎ球場まで駆けつけ、私生活では非社会的であった私の指示で皆が声を張り上げてくれた。さらに、吹奏学部は猛暑の中、迫り来る頭痛にも文句を言わず、演奏を続けてくれた。対清稜情報高校戦、いわきグリーンスタジアムの最上段までメガホンの紫色一色に染まったあの光景を私は一生忘れない。それは、男と女といった区別はなく、同じ安高生として一丸となる、新しい安積の応援の形であった。私の不安は杞憂に終わった。その時こそ、私が応援団を最後まで続けたこと、そして、私が118期であったことへの喜びを嘯み締めた瞬間であった。

(昭和大学医学部 学生)

応援団という名の劇薬

久保木史朗 (119期)
(第58代団長)

「念ずれば花開く」と叫び続けた夏から二年半。私は今何を目指しているのだろうか。

初めて安積を訪れたのは受験の日であった。「なんとなく」と言う言葉が相応しいであろう。それが安積を受験した理由だ。もちろん応援団の存在など知るはずがない。未知の組織だったから尚更、初めて見た時の衝撃は忘れられない。

新入生を迎える安高生の群れ。その様子は混沌という二文字そのものだった。応援団の入場によりその闇が一瞬にして引き裂かれた。その瞬間、私は雷に打たれたかのような衝撃を受けた。煙草一本吸っただけではそこまでの中毒性はないと思う。しかし応援団は違った。今思うと、この時私は既に麻薬の中毒になっていた。安積高校応援団という劇薬の。

その後的高校生活はと言うと、「安積高校応援団とは何か?」、「久保木にとっての応援団とは?」の問いに対する答えを探す旅であった。

旅と言っても自由なものではなく、先輩方が築いてきたレールの上を進むという不自由なものであった。目標(=問いの答え)の達成には苦痛が伴った。その苦痛によって私は逆説的に一日一日を生きていると実感することができた。一種のマゾヒズムとも言えようか。これが中毒症状の内の一つである。

そしてゴールへ辿り着いたとき私は団長という肩書を背負っていた。しかし団長とは名ばかりで、私は私のままであった。以前と何が違うかと言うと、後輩が歩くレールを敷くという使命が課せられたことだ。先輩が築いた道を行き、後輩への道を残す。それが安積であり、応援団である、と私は思う。

以前私は、「安積高校応援団とは安高そのものであり、応援団幹部とは

その安高生の代表である。」と記したことがある。代表とは言うものの、「日本代表」などと使うような周りより長けた集団ではなく、読んで字の如く、代わりに表した集団である。表すものが安積魂だということは言うまでもない。

しかし安積魂を体現している安高生は他にももちろんいる。では安積魂とは何か？という疑問を持つだろう。それは人それぞれの安積に対する思いであり、簡単に定義できるものではない。そう考えると応援団と応援団幹部はイコールとも言える。各期の各個人の安積に対する思いが積み重なって今の安積を築いている。それが安積の伝統だ。

一年間の休憩を挟んで進学した大学。様々なことを夢見て上京してきた。しかし今もなお、私は麻薬の中毒に苦しまされている。その苦しみの中で私は何をを目指しているのだろうか。何をやっても温い。何をやっても満足できない。2005年の夏のあづまで感じた快感を追い求めているのかとも思える。

快感を得る為にペダルを漕ぎ甲子園に紫旗を運んだ。ハタチの新春に同期の友とアサカを叫んだ。

18の夏に燃え尽きた自らの魂を再び呼び醒ます。これが私の人生における目標であると共に、麻薬の禁断症状から解放される唯一の方法である。

人生の岐路に立った時、安積を訪れることにしている。

ある人は「故郷を忘れたらだめだよ。」と言った。故郷とは安積であろう。悠然と立ちたる旧本館。桜花散る安積野。誇りと照れる五十鈴湖。これらが私の青春の舞台であり、そこで出会った全ての人が私の青春そのものと言える。その青春に触れる度に当時の魂が呼び醒まされ、勇気もろう。

124年目を迎える今年、安積の大進撃は全てを巻き込み後世へ道を残していくことだろう。

さて、私は今後何をを目指していこうか。劇薬の呪縛から解かれる日は来るのだろうか。

(慶應義塾大学 学生)

安積の新生へ

丹伊田佳織 (120期)

(第59代団長)

私は第59代応援団団長を務めさせていただきました。せっかくこのような場をいただけだったので、今現在応援団に少しでも興味のある生徒や新しく入学してくる新1年生向けに原稿を書きました。これを読んで応援団への入団を決意していただければ幸いです。また、それ以外の方でも私の感じた応援団とはどんなものなのか知っていただければと思います。

私が応援団として活動している間は、表向きでは「男女が同じこと（練習など）をすることに意味がある」としていましたが、実際はそんなことないと今となっては思います。どう考えても体力に差がある者同士が同じことなんて出来ません。近いことは出来るかもしれませんが、100%同じことをするなんて無理だと思います。応援団の活動を通して私は、人と同じことをするのにこだわるのではなく、自分の得意分野では思う存分力を発揮して、不得意分野では周りの力を借りるべきだと感じました。例えば、リズム感があるから太鼓をたたく機会を多く設けたり、面白い発想が出来るから安高生注目のネタを考えたりなど、何でもいいのです。簡単に言えば分業みたいなものですね。そうでもしていかないと応援団の団員数がさらに減ってしまうような気がします。

今だから言えることですが、私はあの応援団の練習が辛くて仕方ありませんでした。皆さんの前に立たせていただいて堂々としているつもりでも、ふたを開けてみると中身はそんなものなのです。立派でもなければ強いわけでもありません。応援団に所属している生徒と関わりのない生徒、特に入学したばかりの新生入生などはこれを聞くと驚くかもしれませんね。ですが、いくら応援団といっても一安高生。つまり皆さんと同じです。だから応援団に入団することは他の運動

部や文化部に入部することとなら変わりありません。まあ、入団するのにちょっと変わった選挙があるという違いはありますが…。ですがそれは関係ありません。「応援団をやりたい」という気持ちが少しでもあれば大丈夫です。

練習内容については、現役たちが中心となって見直している最中です。「応援する立場として楽な練習は出来ないが、今のままではいけない」といった葛藤のために多少足踏み状態ではおりますが、今までよりは良い方向に向かっていると思います。大変かもしれませんが、現役たちには私達が出来なかった課題をなんとか解決してもらいたいです。

こんな偉そうなことを言っていますが、私はどこにでもいる普通の大学生です。応援団は私の中のほんの一部の側面にすぎません。しかし、それがとても大切なつながりをつくっているのです。私は応援団の活動を通して様々な人に出会い、たくさんの考えに触れ、それを吟味し、必要なものは吸収することが出来ました。確かに辛かったこともありましたが、それ以上に得たものは大きいです。「得た」ではなくむしろ「今も得続けて」います。こんなに大切なつながりを持つことが出来て私はとても誇らしく思います。

「応援団に入って後悔することは決してない」ということを卒業してから強く感じるようになりました。本当にやり続けて良かったです。これからは、応援団に入団してくる後輩たちにもそんな風に思ってもらうために、私が先輩方にしてきてもらったようにサポートをしていきたいと思います。

(聖徳大学 学生)



画：村田 旭 (86期)

頼もしい同期生たち

宗像良保 (78期)

78期の同期会では、毎回誰かが講演する。

それまで年に1～2度同期生で集まって飲んでいたが、「いろいろな分野の人がせっかくこうして集まるのだから、誰かに講師になってもらい、貴重な体験談、経験談、専門知識を披瀝してもらおう」と15年位前から始まったのだ。

トップバッターは、日活ロマンポルノ監督の吉井憲一君。女優と一緒に風呂に入ったなどの話に羨ましそうな顔顔、興味津々だった。

経営コンサルタント小野寺一善君の「リストラ請負人」は、恐い話だった。ヘッドハンティングの誘いに乗って退職する。実はそれこそがリストラ請負人が仕掛けるリストラ策。こういう内幕話はここでしか聞けない。

IT系のベンチャー企業を立ち上げた同期生もいる。青津廣明君、木戸敏則君がそうだ。講演をきっかけに、その夢に共感し、株主になった同期生もいる。

病気も大きなテーマだ。川本昇君の「闘病記」、宗像亀美男君の「ガンを切らずに治す 重粒子線ガン治療」の紹介、医薬品コンサルタント橋本久信君の「薬はリスクではあるが、精力剤から育毛剤まで」、健保組合常務理事鈴木憲二君の「保険者からみた医療費」など。

ビジネス関連の講演も人気がある。特許庁深津弘君の「特許法改正解説」、財務経理のプロ笹山秀明君の「商法(会社法)改正のポイント」、中国から帰国したばかりの服部美智雄君の「上海報告」、川音康男君「ロシア貿易」、近内篤雄君「中古車業界」、そして参加者の大変多かったキャノワード・ビジネス用レーザープリンター開発者山田靖昭君の「キャノンのワイガヤ仕事術」。

地震のことは東京消防庁椎野靖啓君の「新潟中越地震と東京直下型地

震」、都市計画の話は建築家で大学講師の桜井淳君、教科書問題が起これば教科書会社編集者池澤正晃君だ。

美術の世界もある。書道界の有名人国分守君の「書道教室」、そばや主人だが骨董品・美術品収集家上野富衛君の「お宝拝見」もあった。

リタイア後に参加する人が多いボランティア活動については、ジャオクラブなどのボランティア活動を長いこと続けている郡司和昭君の話が大変参考になった。

私は、中国雲南省山奥の少数民族の村で見聞した母系社会・妻問い婚の話を見せていただいた。

去年は、多くが定年を迎えて「退職金と年金の運用法」。これは参加者全員で討論した。

毎回近況報告の時間もある。全員が最近経験したこと、考えていることなどを報告するのだが、時に大変刺激的な話題が提供されることもある。

会場は、大手町の鞍手茶屋。上野富衛君の店である。いつも無理を聞いてもらっている。どれほど助かっているか分からない。

そしてこれらの頼もしい同期生の話を聞くたびに、安積高校卒業生の多士済々振りをつくづく思うのである。(勤務先・肩書き等は講演当時のもの)
(プレジデント株)

東京の「^{やし}野志の会」、郡山の「^{にしち}27会」は元気の源
「84期はいかにして総会参加者を増やしたか？」

小林伸久 (84期)

東京桑野会84期(「野志の会」)の学年幹事を務めております小林伸久です。私の東京桑野会学年幹事としての年間スケジュールは、正月2日の16時、郡山駅前のアーケード街にある珍満で開催される27会(昭和27年度生まれ)の新年会への出席からスタートします。この会は郡山の84期のメンバーが、毎月?27日に同期の中村君のやっ

ている「千年満開」に集まり親睦を深める会と聞いておりますが、毎月の会に出席したことの無い私にとっては毎月の会の様子は定かではありません。

ただ、このお正月の会だけは毎年出席しております。27会のメンバーは1組(母体はここです)そして2組(私は2組でした)&新聞部その他?で、幹事は1組真壁君が務めております。毎年新たな参加者が発掘?され、新たな親交が生まれております。今年の新年会時には機会があれば、東京桑野会への参加と連絡の取れている東京の84期のメンバーに声をかけてもらいたいとお願いしました。更に、84期同士の情報交換の中から何らかの成果が上がっていくことを期待したいと発言してもらいました。ビジネスであれ、親父バンドの結成であれ、何かが生まれてほしいものです。ただ、それが無くても、同期のメンバーと飲んで語り合い、歌うのは元気の源となります。そんなこんなで、27会幹事の真壁君とは今年になって27会のメンバーが、平日は東京に勤務し、週末は郡山に帰っているという情報を得まして、早速東京桑野会への出席をお願いしました。

さて、肝心の東京桑野会、「野志の会」(命名は青沼君)に話を移しましょう。私が東京桑野会への参加をした動機は、東京桑野会報を見て、その中の学年幹事の名前に、知っている人の名前を見つけたからです。82期古川さん、83期川口さん、そして84期渡辺君はバスケット部のメンバーでした。この会に行けばこの3人に会えるし、同期の仲間とも会えるかなと思い、出席する気になりました。

ところが、どっこい現実是这样いものではなく、1年めは誰一人知っている人も無く、2年めにバスケット部の先輩に会うことはできたものの、同期の渡辺君は秋田に転勤となっており、3年目まで、84期は一人同窓会でした(泣)。同窓生ですから、郷里の話や、先生の話など、共通の話題で話はできても、同期生がいないのは逆に大変寂しいものです。そこで、自ら学年幹事を買って出て、「東京桑野会総会の主席者名簿の中で最も人数が多いのは84

期だ!」を実現したいと密かに決心しました。

そうは言っても、日常は仕事に追われ、いつのまにか総会の日になってしまい、人を集めることの難しさ、50代という働き盛りで時間もなかなか取れない現実で4年目の総会を迎えましたが、その時、偶然中山君、山本君という名前を出席者名簿に見つけたときの嬉しさは今でも忘れません。両君とは安高時代は全く面識も無かったのですが、話が盛り上がったのは言うまでもありません。それから、彼らとも相談し、総会が平日の18:00からと、仕事の都合で出られないこともあるのは現実です。そこで84期は同日の21:00から目白駅近くの居酒屋にあらかじめ2次会をセットし、総会にどうしても出られないときは2次会への出席を依頼しております。(野志の会方式=これだと、余程の用事の無い限り、欠席できません?！)

さらに、今年で、4回目になりますが、84期だけの会を別途開催しております。今年はサントリー渡辺支店長(84期)の案内で、1月19日(土)に赤坂のサントリービールの美味しく飲める店で開催し、2次会も赤坂で飲んで語って歌って本当に楽しい一日でした。今回は13名の参加者となり、益々参加者は増えていきそうです。現在、「野志の会」会長の菊地君が札幌転動中で少し寂しいのですが、今後もバスケット部つながり、合唱部つながり、クラスつながり、等々あらゆる手を駆使して会のメンバーを拡大するつもりです。そして、この「野志の会」、ひいては東京桑野会が懇親の為だけの会ではなく新しい成果を生み出せる会に成って行ってほしいと思っています。この会に参加するだけでもパワーをもらえます。

(江戸川木材工業㈱)

4度目の年男を迎えた 珍男児

増子浩重 (92期)

1期上の先輩から“東京桑野会会報

の原稿を書きなさい”と半ば一方的な命令でしたが、このような特集が各期同窓会の盛り上がりにつなげられるとの趣旨に対し大いに共感し、正月のお屠蘇気分の中パソコンに向かっていきます。私は、某商社に入社以来25年目を迎えますが、急速に進むグローバル化とフラット化の波、益々重くなる社会的責任にもがきながらも孤軍奮闘中の毎日を過ごしています。さて、数多くの著名人・名物男を輩出している安積の中にあり、92期は、比較的粒ぞろい、安積の精神である開拓者精神や質実剛健を地で行く同胞は少なかつたように記憶しています。2003年7月に開催した第1回同窓会では100名弱の同窓生が出席し、卒業後25年を経てその非凡なる才能を開花させていた何名かと旧交を温めることができました。今回は、その中の何名かを紹介させて頂きたいと思います。

まずは、鶴巻秀一君。安積時代は学業に精を出すというよりも、社会勉強に精を出していた言う印象が強かったと記憶しています。それが2003年7月に再会した時は、本宮町町議会議員。何と、文教福祉常任委員会の委員を務めると言うから驚きです。文教福祉委員会の活動そのものは殆ど知りませんが、文教福祉と言う文字から類推するに地元教育界や福祉政策に尽力する行政組織と考えられます。いずれにせよ、92期出世頭の代表格であると言えます。尚、本宮町は、平成19年1月に白沢村と合併して本宮市となりましたが、我がエース鶴巻君は、引き続き産業商工副委員長・議会運営委員として大活躍中です。

次にユニーク逸材として紹介したいのが、大澤匡君。安高時代は、怖面の体育会系と言う印象の強い彼だが、卒業後はカヌーにのめり込んでいく。どのような出会いをしてカヌーを始めたのか、今度会った時に聞いてみたいが、数多くのカ

ヌー選手権等を経て1992年に川越を拠点としたカヌースクールを立ち上げる。その後1995年に拠点を埼玉県の大澤に移し、現在は、アウトドアセンター長瀬とカヌーショップの代表取締役を務めています。同センターホームページには、“アウトドアセンター長瀬を影で(?)支える。近くにいれば大声が聞こえるはず。猪突猛進型。現役の時から体は1.5倍になったけれど、カヌー、ラフティングへの情熱は変わらない。”と紹介されています。50歳を目前にしていまだに夢を追い続けている大澤君の今後の活躍が楽しみです。

紙面の関係からもう1名とさせて頂きませんが、92期の人気者安藤俊彦君は外せません。安高時代からのその人懐っこい性格に人の輪ができ、気が付いてみると彼を中心に事が進んでいく。第一回同窓会も彼が発起人となり開催できたとの実績からも安藤神話は今も健在と言っていいでしょう。因みに彼は、うすい百貨店のはず向かいに店を構える呉服問屋の若主人。ご子息の成人式や孫の七五三の時には是非共安藤呉服店を利用して頂きたいと思いますが、当の本人はあまり商売っ気無し。同期が経営するペンギン亭なる飲み屋に夜な夜な集まっては、92期世話役としての飲みニケーションを図っているとの噂。

今回は、3名を紹介させて頂きましたが、92期の名物男はまだまだ沢山いるはず。私自身の東京桑野会の役員をさせて頂いておりますので、名物同窓生の近況をお待ちしています。



92期同窓会でのワンショット

“伝統の一戦” 開幕へ

伊東孝弥 (88期)

平成19年9月には、123周年の紫旗祭が開催された。私たちの現役時代と比較してどう変わっているか、興味をもって卒業以来初めて見学してきた。伝統の仮装行列は今も実施されているが、安女（現安積黎明高校）の前を通るというコースは変更になっていた。安女の前になると皆気合いが入り、大歓声を出していた風景は今はない。当時は、女装をする出し物も結構多かったと思うが、男女共学になった今も女装人気は変わらなかった（女装願望は時代が違って無くならないようである）。仮装行列後、ステージでのパフォーマンスをはじめ、各クラスの出し物等思考を凝らしたなかなかハイレベルな演出が多かったと思う。伝統はしっかり引き継がれているのを実感した。2年後の125周年で

の紫旗祭がまた楽しみである。

そして、私たちの時代には考えられない、夢(?)のような出来事が開催された。平成19年6月30日(土)、梅雨の合間、開成山球場において安積高校と安積黎明高校の硬式野球部の第1回定期戦が開催された。平成13年男女共学になるまで、男子校の安高、女子校の安女として、それぞれその歴史を築いてきた両校。その卒業生の中に、果たして両校野球部の定期戦が開催されることを予想した者はいたであろうか。男女共学化について、当時相当な議論が交わされたことは記憶に新しい。ここでその賛否について語るつもりはない。この夢のような出来事を紹介したい。

定期戦は、両校のPTAが中心となって実行委員会を組織して開催された。奇しくも、この夏の全国高校野球選手権県大会では、互いに勝ち進めば、3回戦で対戦することになっていたため、その前哨戦ということで熱い戦

いになることが予想された。この定期戦の開催にあたって、実は私にはある不安が過ぎっていた。それは、安積黎明高校が安積の大応援団の応援に圧倒され、そして試合とはいえば安積の一方的な試合展開となってしまうことであつた。ところが、実際試合が始まると、安積の寂しい応援席に比べ、たくさんの生徒で埋め尽くされた安積黎明の応援席、そして一致団結して行われた黎明の応援。試合の方は、安積が先制したものの一気に逆転され、あと1点が取れず惜敗。私の不安とはまったく反対の結果となってしまった。日程的に安積は3年生が模擬試験だったこともあったが、寂しい応援席と誰も予想しなかった結果に、OBはじめ安積の落胆の色は隠せなかった。しかし、夏の本番では、しっかりリベンジさせて頂いた。(続く4回戦の日大東北高戦では9回に3点差を追いつき、一打逆転の場面もあったが延長の末サヨナラ負けしたものの、野球部のその粘り

磐梯熱海温泉 安積桑野会旅館案内、帰省の折には是非ご利用下さい。

詳しくは各旅館ホームページをご覧ください。東京桑野会報を見たとご予約下さい。

四季乱一カ

TEL 024-984-2115

心づくしのおもてなし

一方ではお出迎えからお見送りまで、お客様に心ゆくまでくつろいで頂けるよう、満足のゆくおもてなしをするべく日々心掛けおります。季節を感じる料理、広々とした客室、眺めのいい風呂、華やかなウエディング、その全てに粋な演出を込めました。わずらわしいことは忘れ、心ゆくまで最良の時をお楽しみください。

www.ichiriki.com

熱海荘

TEL 024-984-2101

日常の雑事から離れて…

たゆやかな山と河の風景、そして静寂。数寄屋造りわずか10室、贅沢な大人の空間。玄関でのお香から寝具の寝心地まで、すべては五感の安らぎのために…そして、その日厳選された素材で造る、お部屋出しの会席料理でも本当に価値があるものは目に見えないもの…時が止まりそうな静けさの中、熱海荘には 心に残る時間があります。



はたご
旅籠 松柏
しょうはく

TEL 024-984-2525

ご高齢の方やお体の不自由な方にも配慮した、“やさしさ仕様”の設備をととのえております。

磐梯熱海温泉旅館松柏は、高齢者や障害者を含むすべての人々が安心して快適に楽しめる社会環境づくりに貢献した旅館や地域組合の活動に対して贈られる「人に優しい地域の宿づくり賞」最優秀賞を受賞した「やさしさ仕様」の旅館です。



をりふしの宿 昭月

しょうげつ

TEL 024-984-3309代

テレビを消して自分の時を過ごそう。

本を読むのもいい。
飽きたら小鳥のさえずりを聞きながら、まどろむ。
掛け流しの湯に入る。頃合良く食事が運ばれる。
おいしい、地酒でも飲もう。



磐梯熱海 紅葉館
温泉本舗
きらくや
KIRAKUNEO

TEL 024-984-2130代

きらくやの基本的な考え方。

通常の旅館はいつでも1泊2食付きそして食べ切れないほど食事とサービスが付きます。1996年にきらくやと言う名前生まれ変わり、お仕着せの夕食と過剰なサービスを無くして低価格の「一泊朝食旅館」きらくやが生まれました。これはグローバルスタンダード、外国人客も宿泊しやすく、地球温暖化防止にも役立つのです。



と一体となって繰り広げた応援は見事なものであった。)

これまで、両校は、文武両道のもと、お互い切磋琢磨し合い、それぞれの伝統を受け継ぎながらその歴史を築いてきた。がしかし、男女共学となり、既に女子、男子の卒業生を輩出するようになった今、文武全ての分野で同じ土俵の上で、互いにライバルとして、今まで以上に切磋琢磨し合える環境が整ったといえると思う。「安積には絶対負けたくない」「黎明には絶対勝つ」というようなライバル意識をむき出しにした定期戦を開催することは、両校にとっていろいろな意味で大変意義深いものがあると思う。将来、野球のみではなく、様々な部活動においてもこのような定期戦が開催できるよう協力できればと思う。なお、第2回定期戦は平成20年5月31日に開催される予定である。「伝統の一戦」として、多くの郡山市民にも愛され、親しまれる定期戦となることに期待したい。

(平成19年度PTA会長)

いつまでも変わらぬ
安積への想い
—分野別講演会に
参加して—

渡邊 聡 (98期)

私が安積を巣立ってから、はや23年が経ちました。安積で学んだ昭和57年から60年というバブル経済突入直前の

日本は、順調な経済成長下にあり、現在に比べ夢や希望に満ち溢れていた時代でした。当時は、日米貿易摩擦問題が深刻化しており、日本製品を叩き壊すシーンなどがテレビで報道され、アメリカ経済社会にとって日本が新たな脅威となった時代です。その一方で、ロナルド・レーガン元大統領と中曽根康弘元首相が、お互いをファーストネームで呼び合い「ロン・ヤス外交」を築いた時代でもありました。首脳レベルだけでなく、一般庶民にとっても、超大国アメリカが身近に感じられるようになったのもこの頃だったのではないでしょう。

そういった背景の中、アメリカに憧れを抱いた私は担任の先生の反対を押し切り、国内大学進学ではなくアメリカ留学を決断しました。日米関係が急接近したとはいえ、プラザ合意前の「1ドル=235円」という円安時代でしたので、私を含む多くの日本人留学生は物価水準の違いを痛感していました。学部を卒業するのに5年を費やしたものの、安積の恩師達の予想に反し、何とかユタの州立大学を卒業することができました。その後、バブル経済真只中の大企業からのお誘いを断り(当時は日本企業の人事部長さんたちが、アメリカの大学まで留学生をリクルートしに来る時代でした)、私はニューヨークの大学院進学を選択しました。当時、警察官であった父と小さな下宿業を営んでいた母の支えだけで、高価な大学院の教科書を買

うお金にすら困ったほどですが、人生の中で初めて学ぶことが楽しいと思えたのもこの頃でした。

今思えば、お金だけではなく自分の能力の限界に直面し、何度も挫折しかけたことがありました。一旦、「自分には学位を取得する能力など無いのでは」と考えると、悪い連鎖反応が始まってしまうのです。そういったときに必ずしたことといえば、日本を出国する前に安積の級友達が録音してくれた「激励」のカセットテープを聴きながら(勿論、安い酒を飲みながら)、ひとり安積の応援歌を歌うことでした。安積出身であることの誇りと旧友の「声」、そして既に学生結婚しておりましたので、当時の貧乏生活を支えてくれたアメリカ人の妻に励まされながら、何とか経済学、教育学、数理統計学の修士号と経済学博士号取得まで漕ぎつけることができました。ニューヨーク及びカリフォルニアでの9年間の大学院生活を含め、14年間という長期に亘る学生生活の後、ワシントンDCに移り住み、研究者としてやっと給料を貰えるようになった時の嬉しさは今でも忘れません。既にアメリカ永住権を取得していたことがメリットとなり、アメリカ連邦政府機関の研究活動に参加する幸運に恵まれたのです。

6年前に帰国し、現在の職場では大学院生の教育指導と研究活動に従事しています。安積では決して模範生徒ではありませんでしたが、曲り形にも研究教育職に就くことができ

自動車、情報通信、医療・介護の分野で高品質のゴム製品を供給しています。

 株式会社 朝日ラバー

本社 〒330-0801 埼玉県さいたま市大宮区土手町2丁目7番2 Tel.048-650-6051(代表) Fax.048-650-5201
大阪営業所 〒536-0016 大阪市城東区蒲生1丁目12番10号 京橋アドバンス21-205 Tel.06-6930-2521
福島工場 〒969-0101 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎坊頭窪1番地 Tel.0248-53-3491 Fax.0248-53-3493
白河工場 〒961-0004 福島県白河市萱根月ノ入1番地21 Tel.0248-21-1401 Fax.0248-21-1404

◇創業 1970年
◇資本金 5億1,687万円
◇JASDAQ証券コード5162
◇ISO9001認証取得
◇ISO14001認証取得

取締役会長 伊藤 巖(65期)
監査役 柳沼 晃(65期)
顧問 中井惣吉(65期)

私の体験談を、母校での分野別講演会で話す機会も頂いております。これまで3回ほど講師として招いていただいたでしょうか。いつもの大学院での授業とは異なり、若い後輩達の目の輝きに刺激され、毎回制限時間を超過して話してしまい先生方を困らせる始末。しかし講演会の数日後に送られてくる「感動しました」、「今後の進路選択に役立ちました」、「経済学という分野に興味を沸きました」という後輩達からのコメントは私の宝物であり、いつまでも変わらずに抱き続ける我が母校への新たな誇りと感謝の気持ちとになっていくのです。

(筑波大学大学院ビジネス科学研究科)

安高・安女・・・同窓会

両角祐子

(安積女子高 昭50年度卒)

「安女の時、生徒会長だったわよね？」

5年前に受けた、〇十年前にタイムスリップさせるような電話。そういえば「三つ折りソックスじゃなくてアイビーソックス（ともに死語・・・）を許可してほしい。」なんて先生方に掛け合ったりしていたような・・・。依頼を受けて安高に文化祭用にフォークダンスの講習に行ったこともあった。現在は国の重要文化財だという講堂みたいところで、安高生徒会の皆さんと一緒に踊っていて、気が付いたら

ホールの周りの窓という窓には安高生の顔・顔・顔！。後にも先にもあの時ほど男性の熱い視線を浴びたことはなかったなあ・・・等々、いろいろなことを思い出させられました。そしてこの一本の電話から、私と同窓会とのつきあいが始まりました。

この電話は、私たち高校28回生の代が「東京花かつみ会」の総会の当番幹事に当たるので、10回生の先輩方と一緒に準備に入るように、というものでした。それまで同窓会と全く無縁だったので躊躇したのですが逃げ出すこともままならず、結局は仲間8人を集めたく（？）当番幹事におさまりました。そうして、いざ幹事会や準備会に出席してみると、なぜこんな年上の方々と一緒に幹事なのだろうと思っていた10回生の皆様（考えたら、ちょうど私たちが生まれた年の卒業生というおしゃれな設定！）はパワフルで圧倒されそうでしたし、高女の先輩方の矍鑠としたお姿もとても素敵でした。役員さんをはじめとする皆さんの安女への熱い想いに胸を打たれ、また、久しく耳にすることのなかった「若い人たち」と私たちを呼んでくださる心地よい響きに惹かれ、いつしか「花かつみ会」にとっぴりつかっていました。

ところで、私たちが当番をした年は安積高校の創立120周年に当たるということで、東京桑野会においては芥川賞作家の玄侑宗久氏の講演計画があるとのことでした。そして10回生の先輩と桑野会の幹事の方とのつながりか

ら、私たちの総会でも講演をお願いできる運びとなりました。この辺りの詳細は先輩方にお任せしてしまったのですが、「これから東京桑野会の人たちと打ち合わせなのよ。」と言って出かける先輩方には「いいなあ。合コンですか？」と思わず声を掛けたいような「乙女のオーラ」が漂っていました。玄侑氏のスケジュールの関係で、結局、私たちの総会の講演だけが可能になり、東京桑野会の皆様には本当に申し訳なく思っておりますが、その関係もあり、東京花かつみ会当日には、8名の「安高生」の皆様に出席して頂けました。男性といえば恩師ばかりの例年とは違って、ちょっと「ときめき」のある会になったと思います。講演会も好評、総会も盛況だったのは、東京桑野会のご協力の賜と感謝に堪えません。

こうした形で、ほんの少し東京桑野会の皆様との交流がもてたのですが、思えば安高は安女生にとって、常に、気になるけど遠い、遠いけれど気になる存在だったと思います。現在はともに共学となり、時代の流れとしては正しいのかなとも思いますが、「男子校」「女子校」が持っていた特長も消えてしまった淋しさは否めません。かつて私たちが味わった、そして心のどこかに残っている、お互いへの（？）「明るい渴望」は青春の原点だったような気がしますし、独特の「不自由さの中の自由」を感得できなくなったのはかわいそうにも思えるくらいです。東京

鞍手茶屋

東京で福島のけんちんともちを!!

——昼はそば、夜は酒と肴——

霞ヶ関店 〒100-6001 東京都千代田区霞ヶ関3-2-5 霞ヶ関ビル1F 電話 03-3581-7066
大手町店 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービルB1 電話 03-3213-2385
中山峠店 〒963-1304 福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠 電話 0249-84-3774

(店主) 上野富衛 (78期)

桑野会の今号 (No.30) の特集テーマは、「同期会」「応援団」ということですが、安女生はいつでも安高生の応援団です、と言えるでしょう。

(埼玉県在住 公務員)

私の水曜日

小松山綾那 (120期)

午前6時。枕の下の携帯電話がアラームとともに振動する。突然の刺激に彼女は飛び起きる。どうも目覚めが悪いので、友達に教わった方法だ。外はまだ暗い。わかめスープとあったかい納豆ごはん。昨日の残りのブタ生姜焼き一枚。眠い。化粧してちょっと気合いを入れる。参考書にノート、レジュメをギチギチ詰めたらギターを背負って行ってきます。

7時20分。まだ車内に余裕がある。早起きは三文の得なり。彼女はほくそ笑み、昨日買った阿久悠のエッセイを読む。以前は人の波に茫然としたけれど、もう怖くない。それぞれの生活、心、今日があって、みんな目的地を目指して歩いている、それだけだ。

8時30分。一番乗りの教室で、今日の演習の範囲を確認する。江戸の底辺に生きた女たちを、時代のアンチヒーローととらえるテキスト、と教官。そう、女を舐めんじやないよ。彼女は訳もなく熱い想いで2限の授業に向かう。

10時40分。中国語演習の時間中、それは起こった。彼女は自由作文に指名され、こう答えた。

「又不是失恋、為什麼哭呀？」

失恋したわけでもないのに、どうして泣いているの？

教室がほんの少し凍った。

12時。食堂の椅子取りゲームを勝ち抜き、今日もあんかけチャーハンを食べる。友達が箸を置いて彼女に話しかける。

「あのさ、いつでも相談してね」

「どうしたの？」

「……」

どうしたのはお前である。

13時。難解な英語一列は眠りに落ちる学生が多いが、彼女は教官のブラックなユーモアを拾うためにニヤニヤ起きている。やがて目覚めた友人が「みせて」と彼女のプリントを拝借し、いつしか周囲に回っていく。たまにプリンやアイスクリームでお礼が来る。持ちつ持たれつ、と言いたいところだが、やっぱりちょっと腹が立つ。

14時40分。空きコマは図書館と決めていたが、友達が相談があるというので一緒に食堂に向かう。聞けば個別指導を担当している受験生が精神的に不安定になり、相談に乗るうち自分もすっかり疲れてしまったという。彼女は高校の後輩のことを思い出した。最終的に人生を決めるのは本人なんだから、と友達を励ましたあと、生協でポストカードを買った。何もしてあげられないけど、心をこめてメッセージを

書いた。そうだ、お守りも入れて送ろう。

16時20分。内部告発を描いた映画「インサイダー」で、ビジネス倫理を考える。スクリーンに大写しされたアル・パチーノの力強い目線に射抜かれた彼女は、「守秘義務…契約時に条件として組み込まれている場合がほとんど。退職後も順守すべき」の隣に彼の名前を書きとめた。踊るような足取りで教室を後にする。

18時。左肩に背負った可愛いギターを下ろし、思う存分かき鳴らす。彼女は秋の学園祭で有志団体によるミュージカルの主役を張った。当初参加する気はなかったが、責任者から突然指名されたのだ。練習期間が短かったせいもあったが、彼女は自分の演じる姿に納得が行かなかった。悔しかった。もう一度表現に本気で向き合うためのギターだった。それから、先月の失恋に向き合うため。

19時50分。再び学食。音楽談義に華が咲いた。テストが終わったらカラオケにでも行こうよ。そうだ、そうだ。そのあとは2年生追い出しライブだ。やったあ。彼女はその時初舞台を踏む。

帰り際、仲間が言った。

「元気出してね」

優しい人ばかりだ。ちょっと涙が出てきた。今度は嬉しい涙だった。嬉しい涙は、体の芯がきゅんとして、とてもいい。

21時30分。日記を書いたら、明日の準備。中国語の予習と、翻訳論の添削。

小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3
TEL 0248-72-1555

中学生の頃、第二のハリー・ポッター発掘を夢見ていた彼女にとって、翻訳論の講義はもはや講義ではなく、至福の一時。「いつもながらセンスのいい訳文」なんて青字で褒められてしまうと、次もニマニマしながら言葉を練ってしまう。

うん、いい感じ。

24時15分。米を研ぎ、阿久悠の本をとり憑かれたように読みながらお風呂に入る。ちょっとのぼせたのでいい加減にしようと止める。ニュースを見て電気を消す。あと一個だけ読みたい。明日はどうせ3限からだし。読みたい。読みたい。読み……。

以上、私の水曜日。

(東京大学 学生)

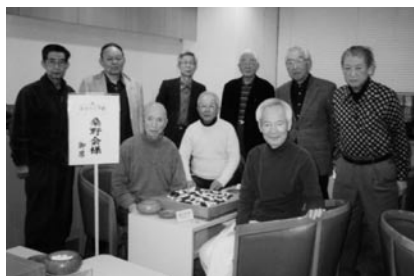
東京桑野会囲碁クラブの近況

山本 佳 (58期)

節分の大雪のあとの余寒は、安達太良や磐梯山の雪景を想いおこさせた。

独り碁や 笹に小雪の つもる夜に
(俳人 中 勘介)

東京桑野会囲碁クラブの会員は21



囲碁クラブ

名、春夏秋冬、年に4回の囲碁例会を開催している。会長は筆者、副会長に谷本滋朗五段(63期)、事務局は洋画家で東京桑野会副会長の高松豊初段(74期)が担当している。昨年は、東京桑野会の古川清会長(63期)が入会される朗報があった。古希を超えてから未知の趣味に挑戦する開拓精神に私は襟を正した。期待の新人である。

中国では古来、琴棋書画の四芸は、風流人の芸術的な‘遊芸’とされている。日本でも士大夫がたしなむべきとされ、信長・秀吉・家康の三人の天下人が、囲碁を好み嗜んだといわれる。囲碁を通じて交流を深めた武将や豪商が沢山おり、その中には伊達政宗や浅野長政の名前が連なる。

大自然の摂理に基づく囲碁の異名は、「烏鶯(うろ)の戦い」。黒石は烏(カラス)、白石は鶯(サギ)を見立て、盤上で争う意である。一治乱興亡おもほへば世は一局の碁なりけり—

日本棋院女流棋士 小川誠子先生が日本経済新聞夕刊一面「あすへの話題」を平成19年1月から6月までの毎週月曜日に執筆された。小川先生のご主人は俳優の山本圭氏、以前、姓名の事でお近づきになり色紙まで頂いた。「コラムを愛読しています」とエールを送ったら、優しい小川先生は小冊子にまとめて下さり、早速会員に配布した。

写真は、平成20年2月2日に日本棋院八重洲囲碁センター特別室において

開催した、東京桑野会囲碁クラブ例会の様子である。(後列左より、杉山、谷本、本橋、本田、古川、長谷部。前列左より、太田、山本、高松。)

東京桑野会囲碁クラブでは、皆様の入会(初心者、女性歓迎)を心よりお待ちしております。

(山本歯科医院院長)

ホームページ創設 5年目を振り返って

—5年目の活動と
アクセス状況報告—

<http://www.tokyo-kuwano.com/>

芳賀雅美 (86期)
(東京桑野会ホームページ委員長)

会報にて当会ホームページの年間活動報告をする季節となりました。平成19年度も大きなトラブルは発生せず、無事に満5年目を終えましたことを喜ばしく思い、会員の皆様方には心から感謝します。

委員会活動ですが、運営者側の都合を優先して、メンテナンスし易いように修正・更新しました。画面上はあまり変化がありませんでしたので気づかなかったかもしれませんが、前年度のメインルートデザイン的大幅変更を引き続き、細かいサブページにつきましても当年度にリニューアルを実施しました。サブページにつきましてはデザインを変更しませんでしたので、その前と比較してもあまり違いは判りません。

かゝ 一級建築士事務所
ARCHITECT OFFICE

取締役 菅野正広 (91期)

〒102-0075 東京都千代田区三番町7-2
ヴィラロイヤル三番町408号
TEL&FAX 03-5212-3236



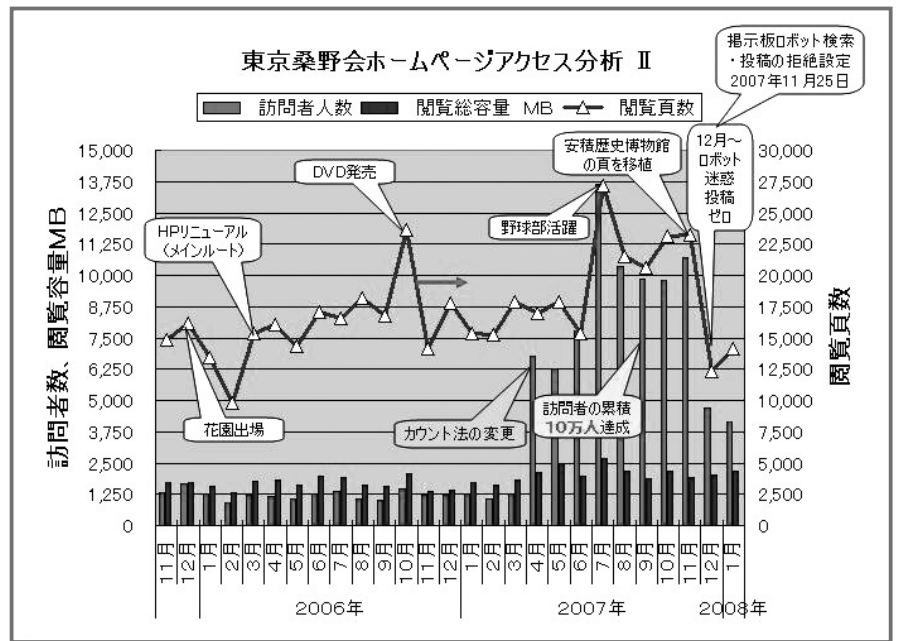
特別養護老人ホーム
晴海苑



また、長い間悩まされていたロボットによる海外からの迷惑投稿対策につきまして、その特徴を分析し抜本的な掲示板プログラムの改造を実施しました。対策の詳細を発表してしまいますと、またその回避を試みる不逞な輩が出てきますので、ここでは秘密としておきましょう。効果は絶大で、毎日数十件あったロボット迷惑投稿がゼロになりました。アクセスログを解析しますと、相変わらずロボットの攻撃がありますが、幸いにもことごとくブロックしていることが判っています。悲しいかなエラーメッセージが返っているにもかかわらず、ロボットゆえに気づかずに今でも同一者と思われる場所からの繰り返し攻撃があります。

迷惑投稿は迷惑メールと同様に、貼り付けられているリンクをクリックするとウイルスに感染したり、アダルトサイトや悪質販売サイトに誘導され、場合によっては詐欺行為にひっかかるおそれがありますので、興味本位で不用意に開けないようお願いします。

もうひとつ19年度には大きな変化点がありました。本家「安積桑野会ホームページ」の完全閉鎖です。なじみの多かった会員の皆様もいらっしゃると思いますが、「asaka-kuwano.jp」ドメインは昨年9月半ば頃からはどのサイトにもつながらなくなりました。同一ドメインを使用していました、「安積歴史博物館」サイトや「会員情報登録・変更届」の頁につきましても、同時に閉鎖されてしまいました。東京桑野会ではこれを補完するため、当会幹事長ならびに安積桑野会75期の村田英男氏にご承認をいただき、当会ホームページに「安積歴史博物館」と「会員情報登録・変更届」の頁を移植しました。以前と全く同様にご利用ができます。ただし「安積桑野会ホームページ」につきましては、本部の運営委員のお考えもあり再開にはしばらく時間がかかります。私個人的な希望としまし



東京桑野会ホームページへのアクセス状況

ては、地元発の情報源としての機能を果たすためにも、ぜひ再開していただきたいと思います。地元のIT関連事業に携わっているOBの皆様また校内OBの皆様には、たいへんお手数ながらご尽力をお願いしたい。

さて当ホームページへのアクセス状況ですが、この原稿を書いております1月までの経過を過去2年間分のグラフで示します(別掲の図を参照:2008年1月は見込みの数値です)。昨年9月9日には、累積訪問者数が10万人を突破しました。さらに9月11日には、のべ閲覧頁数が70万頁を越えました。この会報の発行直後の今年4月末頃には、累積訪問者数が15万人突破となる見込みです。グラフを見てお判りかと思いますが、昨年4月に新アクセスログ解析ソフト「サイトトラッカー」を導入し、訪問者数のカウント方法を変更しました。従いまして、従来とは訪問者数のレベルが変わっています。これは「カウントすべき訪問者数」の定義を変更したためですが、詳細はホームページをご覧ください。運営者側の都合で申し訳ありませんが、この新アクセスログ解析ソフトを導入したこと

で以前よりも解析作業がずいぶん楽になりました。12月からアクセス数が落ちているのは、迷惑投稿をブロックした結果です。本来の正しい姿に戻ったということです。

創設5年目の活動はどちらかといえば、運営者側の負担を軽減するための改訂やソフト導入が主体となりました。迷惑投稿の実績数がゼロになったことから、従来少なくとも1日に2回の巡回監視をしていたところを、今ではすっかり手抜きになってしまいました。巡回監視の頻度は秘密にしておきます。

今後とも会員の皆様のご期待に沿えるよう、充実したページ作りに励みたいと考えておりますので、なお一層のご愛顧をお願いします。

(出光興産(株)電子材料部)

安積歴史博物館便り

国分敏雄 (74期)

変わったものと、変らないものに分けて考えるとしたら、我が母校安積高校の周辺は、すっかり変わった方に入ります。道路は整備され、周辺はやたら

123期生第1学年 分野別講演会について

分野別講演会担当
鎌倉哲雄

平成19年10月13日、各界の第一線で活躍している本校卒業生を講師にお迎えし、123期の1年生対象に、12分野からなる分野別講演会が開催されました。今回で5回目となる分野別講演会はSSH事業として始められたことから、昨年度まで文型4講座、理系5または6講座で開催されていました。今回は、できるだけ生徒の進路選択の幅を広げたい、また文系講座・理系講座を同数にしてバランスのとれた分野別講演会にしたい、との考えから分野別講演会の企画を進めました。その結果、東京桑野会および地元安積桑野会の協力を得て、下記のように文系・理系6分野ずつの12分野を設定することが出来ました。県内外の進学校といわれる高校でも同様の事業は行われていますが、これだけ多肢にわたる講演会が一度に開催されるというのはあまり聞きません。安積桑野会員の活躍する舞台の広さと、何より母校と後輩を思う気持ちの強さをあらためて知ることが出来ました。多忙な中、講演者の決定・連絡等にご尽力いただきました東京桑野会事務局はじめ、当日生徒たちに刺激的な講演をして下さいました、各分野の先生方にあらためて感謝申し上げます。

と住宅が増えました。私が在校していた昭和35年前後の安積高校の校庭周辺はほとんど田んぼ、それが今は住宅でいっぱいになってしまいました。それもその筈、郡山市は人口33万余人の東北でも有数の大都市になってしまいましたから当然といえば当然のことなのでしょう。

その中であって、ちっとも変わらないものがあります。我々が母校「安積中学・高校（本館）」です。明治の元勳伊藤博文や黒田清隆らが活躍していた明治22年、福島市から桑野村に移転以来120年間、風雪に耐え、今日まで、多くの偉人を輩出し続けた、輝ける歴史と伝統の学舎「安積中学・高校（本館）」は「安積歴史博物館」に衣替えて健在です。

私達の頃の本館は、足音、人声等でもっとも賑やかな建物でしたが、今は芭蕉じゃないですけど「兵どもが夢のあと」・・・悠然とそびえたつ建物になっています。

でも廊下や、講堂や、教室で、ジッと思いをめぐらしていると、鮮やかに昔のことがよみがえります。安中・高OBの方でしたら誰でもそうなると思います。癒したり、奮い立たせたり、気持ちをスッキリ、さわやかに、させてくれるのが母校「安積」です。是非ご来館下さい。懐かしさに包まれ、ご満足戴けると思っています。

安積博物館には遠くは関西から、関東エリアから、近くは安女高（現安積黎明高校）OGのおば様方から小学生

まで、夫婦連れ、グループ旅行で、研修に、いろいろなどころから、いろいろな方がいらっしやいます。昔の教材を真剣に見ていかれる方、偉人の足跡に感心していかれる方、バルコニーで校歌を歌ってゆく熱血漢、様々です。来館される方は、どちらかと言うと郡山市民の方々より県外の方が多ようです。それにしてもあの建物を国の重要文化財として残し、先輩（偉人）の遺品、遺物をあれだけ収集した先輩各位の情熱、執念、底力には脱帽、最敬礼です。こういう内容の博物館は他にはないと思いますし、「安積歴史博物館」は安積関係者の誇りです。

来館された方の多くは「安積中学・高校」の歴史に感激して帰られますし、安積OBの方はその懐かしさに心を癒し奮い立たせて帰られます。現役の方々、引退された方々、湯船で、出勤途上で、安積高校の校歌や応援歌を口ずさむことのある方、忘れてしまった方、郡山にお出かけの際は是非、安積歴史博物館にお立ち寄り下さい。そして安積空気を胸いっぱい吸い込んで下さい。吸っても吸っても足りなくなる事はありません。お待ち致しております。

♪七州の覇と謳はれし、栄誉ある歴史偲ぶ時、先進の意気身にしめつ、熱誠事に当りなば

海内比なき校風の確立などか難からむ、難からむ・・・♪（校歌三番）

（安積歴史博物館）

出版・編集メディアの同窓の皆様へ

弊社では、出版社・新聞社・雑誌編集部・編プロ・デザイン事務所等への資料提供や、移転・廃業等の際の図書の整理をしてまいりましたが、このたび出版社などへ送付される書籍や、資料で使われた雑誌等を回収する事業部を設立しました。セキュリティは万全を期しております。大手取引先との実績多数です。当社の活動の詳細に関しましては、google、asahi.comなどのネット検索、または雑誌『東京人』その他の雑誌メディアをご覧ください。NPOの「哲学（新聞）カフェ」と、郡山と東京に情報活動の拠点を準備中です。出版関係の研究会も行っております。この広告枠ではお伝えすることができませんので、専用アドレスを設けました。今後メルマガを発行予定です。「中央線の古本屋」、東京西部でオンライン書店も稼働中です。今後の活動としては、「思考の立ち上がる現場」を目指す大学院の予備校や、市民レベルのシンクタンク、学術情報をわかりやすく伝えるメディアの創設を構想中です。これらは、ここ100年間のメディアの変動を射程に入れた活動です。首都圏の大学に進学した、またはする予定の学生の皆様も、ご協力ください。世界の有名大学の院生や教授とも、交流を持っております。

哲学する本屋・出版・メディアの情報論的転回 / 資料集蔵体

スコブル社（91期）
飯村
Email:sukoburusha@gmail.com

以下、今回の分野別講演会の概要とアンケート結果、生徒の感想の一部を掲載します。

〈分野別講演会の講演者および講演テーマ一覧〉

理系1 宗像利明 先生【物理化学】

84期 大阪大学大学院教授

「物理化学への招待 大学・大学院・研究所での化学の一側面」

理系2 村上昌弘 先生【食品化学】

85期 共立女子大学教授

「ヒトは何故呼吸し、食べなければならぬか？」

理系3 関川浩司 先生【医学医療】

86期 川崎幸病院副院長、福島県立医大臨床教授

「医師への道のり」

理系4 根本孝七 先生【物理工学】

91期 電力中央研究所上席研究員、東京工業大学大学院連携教授

「エネルギー」

理系5 渡部良朋 先生【バイオ技術】

91期 電力中央研究所上席研究員

「バイオテクノロジー」

理系6 川前徳章 先生【情報工学】

102期 NTT情報研究所

「情報と数学」

文系1 秋山時夫 先生【行政】82期

福島県庁企画調整部長

「公務員という仕事－地域を元気にする－」

文系2 別府正俊 先生【法学・検察】

86期 白河区検察庁副検事

「君は「HERO」を見たことがあるか」

文系3 鈴木修一 先生【法学・弁護士】

89期 弁護士（山田・合谷・鈴木法律事務所）「弁護士という仕事」

文系4 増子昌也 先生【マスコミ】

91期 講談社校閲局

「「マスコミ」ってどんな仕事？－編集者の頭の中－」

文系5 佐々木隆志 先生【商学・会計学】

93期 一橋大学教授

「大学で学ぶ会計学とその将来性」

文系6 渡邊 聡 先生【経済経営】

98期 筑波大学准教授

「学術領域の複合化と研究の国際化」

実施した生徒アンケートの結果では、専門分野に対する興味関心が高まった等、多くは肯定的でした。以下に生徒の感想を紹介いたします。

・先生は「未知の課題に取り組む」ことに魅力があると言った。また研究は一人で考え一人で実験や調査を行うものと思っていたが、本当はグループで行うもので人と人のつながりが重要だと知った。（理系1参加者）

・呼吸、食べることの大切さを実感した。日頃何気なく食べ、呼吸して生きているのが、私自身の体の中で絶え間なく変化していることに興味を持った。（理系2参加者）

・医者は単に治療すればいいのではなく患者さんとのコミュニケーションが大切であり、知識はあっても社会性が無ければ医者としては不完全であると改めて感じた（理系3参加者）

・人は一日生きるのに100メガジュール、石油換算0.24リットルのエネルギーを使うが、一日生活するにはその54倍のエネルギーを使うという。僕はエネルギーは地球の生命だと思う。もし地球の生命を浪費しているとすればそれは問題だと思う。（理系4参加者）

・培養できない微生物は99%もいて、先生はそれを利用する方法を探しているという。微生物による環境保全の話聞いて自分も貢献したいと思った。（理系5参加者）

・数学は正直言って日常では役立つまいだろうと思いつつ勉強していたが、数学がなかったらインターネットをはじめ様々な日常で使われているものが生まれなかったのだと、数学の大切さを再認識させられた。（理系6）

・公務員＝安定の図式がガラッと崩れた。公務員という仕事の種類の多さ－行政、教育、医療、公安…。また公務員は安定しているのは法律によるのであって、法律が変われば身分も変わる

とのこと。（文系1参加者）

・テレビドラマ「HERO」と関連付けて話してくれ理解が深まった。事前に質問した死刑廃止論についても答えてくれた。立場上明言は避けたが、犯罪者が「なぜ自分が死刑になるのか」を理解することが大切だという。（文系2参加者）

・弁護士には「ヒアリングの能力」「書く能力」が非常に大切であり、さらにそれに加えて「社交性」「バランス感覚」「書く能力」が重要だという。テレビドラマとは違う地味な仕事のようにだが、視野は間違いなく広がった。（文系3参加者）

・現場の人、本場の人というオーラで圧倒されてしまった。ジャーナリズムに携わる人間の危険と信条を教えてくださいました。雑誌と新聞の立ち位置の違いは私もよく考えてみようと思います。（文系4参加者）

・会計学とは何か、経済学と経営学の違いは何かなどという疑問を理解することが出来ました。会計士や税理士の重要性とともに、難関試験に合格する必要があることを知りました。（文系5参加者）

・先生のチャレンジャー精神、根性に圧倒された。まさしく私に欠けているものだと思います。先生の目はとても輝いていて自分の仕事を心底楽しんでいるようでしたが、その裏での努力の量は相当なのだろうと思いました。（文系6参加者）

今回の講演の後、2年次の文理選択・科目選択が行われました。分野別講演会が、今回の選択だけでなく、今後の様々な選択の機会における判断材料・指針となってくるものと期待しています。さらには生徒の人生観や世界観の形成に役立つくれるなら幸いです。このような機会を提供下さいました関係の皆様には、改めて感謝申し上げます。

東京桑野会役員名簿 平成20年4月1日現在

□役員

役職	氏名	期	勤務先・自宅住所	電話
会長	古川 清	63		
副会長	大津 隆	63		
副会長	水口 禎	67		
副会長兼 幹事長	芥藤 英彦	69		
副会長	増子 邦雄	71		
副会長	高松 豊	74		
副会長兼 副幹事長	櫻井 淳	78		
副幹事長	丹治 則男	81		
副幹事長	渡邊龍一郎	81		
副幹事長	村上 昌弘	85		
副幹事長	坂本 浩一	86		
副幹事長	芳賀 雅美	86		
副幹事長	渡辺 政信	88		
副幹事長	渡部 良朋	91		
会計監査	大内 博文	71		
会計監査	関根 健治	73		

顧問	高瀬 禮二	46		
顧問	吉田 弘俊	52		
顧問	竹花 則栄	55		
顧問	小浜 精吾	58		

□幹事

役職	氏名	期	勤務先・自宅住所	電話
幹事	撞井 保夫	51		
幹事	小宮 茂	53		
幹事	佐久間盛政	54		
幹事	結城 洸	55		
幹事	石川 衛三	57		
幹事	池田 和男	58		
幹事	小針 久	59/ 60		
幹事	佐藤 啓	61/ 62		
幹事	村山 俊司	61/ 62		
幹事	鶴沼 直雄	63		
幹事	谷本 法朗	63		
幹事	渡部 喬一	64		
幹事	本田 保夫	64		
幹事	佐藤 司	64		
幹事	伊藤 巖	65		
幹事	清治 和昭	66		
幹事	橋本大三郎	66		
幹事	横尾 稔	66		
幹事	遠藤 修	67		
幹事	伊藤 泰昭	68		
幹事	青山 掌三	68		
幹事	有我 政彦	68		
幹事	佐藤 廣	69		
幹事	近内 靖夫	69		
幹事	石井 敬治	70		



画：村田 旭（86期）

役職	氏名	期	勤務先・自宅住所	電話
幹事	矢吹 晋	70		
幹事	渡辺 哲弥	70		
幹事	武藤 勇司	71		
幹事	大和田允彦	71		
幹事	遠藤征志郎	72		
幹事	遠藤 宏司	72		
幹事	菅野 一雄	73		
幹事	武藤 一駿	74		
幹事	伊豆 秀雄	74		
幹事	今川 直人	75		
幹事	柳田 力	75		
幹事	満井 和正	76		
幹事	浅川 章	76		
幹事	草野 幸次	77		
幹事	和田 正哉	77		
幹事	椎野 靖啓	78		
幹事	宗像 良保	78		
幹事	大竹 英雄	79		
幹事	山元 紀美	79		
幹事	上石 利男	80		
幹事	安部 直文	80		
幹事	斎藤 誠	81		
幹事	石井 俊一	82		

役職	氏名	期	勤務先・自宅住所	電話
幹事	古川 清志	82		
幹事	永山 幸男	82		
幹事	川口 勝広	83		
幹事	小林 伸久	84		
幹事	境 君夫	85		
幹事	本田 宏	86		
幹事	坂路 誠	87		
幹事	富塚 弘之	87		
幹事	大矢 真弘	88		
幹事	鈴木 修一	89		
幹事	有我 明則	90		
幹事	増子 浩重	92		
幹事	斎藤 宏海	93		
幹事	鎌田 光明	94		
幹事	藤田 健彦	96		
幹事	佐藤 厚	97		
幹事	小野崎 敦	97		
幹事	宗像 孝	97		
幹事	遠藤 昌明	99		
幹事	土田 隆弘	105		
幹事	加藤 祐一	105		
幹事	伊藤 泰司	106		

編集後記

○東京桑野会副会長の増子邦雄さん(71期)は、杉並区の西荻窪住い。お住いから歩5分位の所に特徴のある古書店があって、主は飯村ヒロシさん(91期)。飯村クンと同期で、会ってみたいと言いついたのが副幹事長・広報部長の渡部良朋クン。それでは「西荻窪でメシでも食べる会」を設営せよと私、高松ゆたか(74期)に命じたのが増子先輩。私から、同じく西荻窪住いの池田和男さん(58期)をお誘いしたところ、同期の石井栄典さんを誘ってのご参加。渡部さんも同期の菅野正広クンに呼びかけて、私も加えて7人の会となりワイワイ。やや遅れて参加した飯村クンが菅野クンを認めるや「見たことあるなあ」そうだ「クラブの人数不足で入ってもらったんだ!」と発展。「何のクラブ?」の声に「物理、アンテナ、電波・・・」そんなら「私も同業」と石井工学博士。やれやれ、話は尽きることなく全方向に発展して、お開き。結論、次回平成20年7月31日一泊八ヶ岳界隈にて。設営石井先輩。会報に直結する後記は末筆ながら、挿絵イラストは86期の村田旭クン。郡山土瓜住い。郡山・銀座で、感情豊かな作品をもって活発に個展。ご案内の節は、是非ご高覧を賜りご支援下さい。(74期 高松ゆたか)

○仕事で、郡山と磐梯町に最近よく出かけます。郡山市の景観審議委員をしながら、駅前の景観を心配しています。今年は冬らしく寒さと雪もあり、安達太良の雪景色は懐かしく、美しかった。小桧山さん(120期)の原稿を読んで、彼女が高校1年生の時の文章(東京桑野会会報No.27に掲載)を思い出しました。安積が共学化した後に入学した女子生徒のまぶしい文章に感動した記憶がよみがえりました。安積らしさを失わないで、成長して欲しいと思います。渡部編集長に頼りっぱなしで、斉藤先生の事務所での編集会

議もあまり出席できず。平身低頭。
(78期櫻井淳)

○都内の本社勤務から、千葉県の山奥に転勤した話は昨年報告した。職場では私のドコモの携帯が圏外となつてしまい、昼間は電源を切る習慣がついたら、携帯を使わなくなってしまった。解約しようか、唯一つながらるauに鞍替えしようか迷っていたら、会社の敷地内に年末になってドコモのアンテナが建った。元々auのアンテナが敷地内に建っていたのだから、2本のアンテナの距離が約10メートル。両社の携帯の利用者がどのくらい付近にいるのかよく判らないが、インフラの無駄に思えてしかたがない。こんなこと考えるのは、私だけだろうか。今私の携帯はバリ3である。(がっちゃん)

○NO.30、如何でしたでしょうか?。平成19年度の総会は、28名の学生さんが参加してくれました。全ての年代のOB・OGを結びつけるのが、校歌・応援歌です。となれば、歴代の応援団幹部に登場頂きましょうと、88期の大矢さん、伊東さん(母校のPTA会長で、かつ応援団幹部OB)から120期の丹伊田さんまで。同期会も盛り上げましょうと、78期、84期、92期と!。いつの時代もインスパイアしてくれるのは、安積のこころ、安積の友ですね。

それと、安積の先輩も、スゴイ。神奈川県桐光学園は、安積と同様に2001年の春が甲子園初登場ですね。その時に、学園の経営に安積の関係者が関わっている、と聞きました。桐光の名前の通り、東京高等師範学校・東京文理科大学の卒業生が創設者とは思っていません。「桐」が学校のシンボルですね。安積の関係者ってだれだろう、と思っていたのですが、ひょんなことからその方が分かりました。私の故郷・旧・長沼町の出身で58期の池田和男さん(税理士)がその人です。同じ故郷ということや池田さんと私の伯父が安積の1学年違いで同じ下宿にいたこと、姪御さんと私が中学の同級生

だったり、様々な縁もあり、親しくさせて頂いていました。で、平成19年度の東京桑野会の幹事会でお会いしたとき、「渡部君、私はこんなこともやっていますよ」と、桐光学園の理事、という名刺を頂きました。そうだったんです、池田大先輩が、桐光学園に関わっておられたのですね!。なお、創設者が安積で教鞭を執られていた小塚光治先生で、その教え子というご縁ということでした。わたし、安積→「桐」なもんですから、ちと嬉しかった話でした。

会報に直結する後記は末筆ながら(高松先輩の文章を拝借…)、表紙の旧本館は、67期岩谷徹(版画家)さんの作品です。昨年に頂いたイラストのうち一枚をNo.30用に、とっておきました。(GF91)

事務局便り

【事務局からのお願い】会報の発送は、会員各位の住所動向に大きく作用されてしまいます。住所が変わっていると、せっかくの会報も戻ってきてきませんので、住所変更の際は東京桑野会の事務局まで、ご連絡下さるようお願いいたします(東京桑野会HPにも連絡先を表示しております)。安積桑野会の方にご連絡された方も、ご面倒でも東京桑野会の方にもご連絡下さい。

『東京桑野会会報』No.30

2008年4月1日発行

発行・編集人●古川 清

発行所●東京桑野会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-3-8

YKB新宿御苑804

斉藤法律事務所気付

Tel 03-3356-6677 Fax 03-3356-6678

E-mail info@tokyo-kuwano.com

URL <http://www.tokyo-kuwano.com/>

製 作●株式会社キタジマ

〒130-0023 東京都墨田区立川2-11-7

Tel 03-3635-4510 Fax 03-3635-4515
